

医療機関受診

性同一性障害

15年末時点
会調査 3年で5割増加

心と体の性が一致しない性

同一性障害(GID)で国内

の医療機関を受診した人が、

2015年末までに延べ約2

万2千人に上ったとの調査結

果を日本精神神経学会の研究

グループがまとめ、札幌市で

18日に始まったGID学会総

会で公表した。12年末時点の

前回調査と比べ、3年で約5

割に当たる7千人増加した。

塞際のGID当事者はさらに

多いとの見方が強く、受け皿

の整備が求められそうだ。

当事者の意識も変化した

り、当事者の意識も変化した

当事者は国内に数万人いると

されるが、受診者数で改めて

裏付けられた。専門家は「児

童、生徒や高齢者を中心によ

まだ医療機関を受診できてい

ない人もいる」とし、今後も

受診者数が増えると指摘し

た。

今回調査で、体が女性で心

は男性の受診者が1万474

7人だったのに対し、逆のケ

ースは7688人だった。針

間氏らは、26医療機関以外で

診断を受けた人もいるとみ

て、国内の当事者数を約2万

は、全国で4万6千人いると

の推計を北海道の大学教授ら

が13年にまとめている。

GIDの当事者数を巡って

は、GID学会理事長の中塚幹

也・岡山大大学院教授によ

ると、国内での手術には10

0万円以上必要で、実施する

医療機関も少ないため平均

1年半待つことになるとい

う。GIDと診断された人の

約2割しか手術を受けておら

ず、性別変更のハードルは高

い。

中塚氏は「日本全国で治療

できるようにしたい。人材育

成と保険適用が鍵になる」と

5人と推計した。

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大大学院教授(生殖

医学)は「障害への理解を深め、いじめや差別の二次被害をなくすためにも、当事者の数を示すことは重要だ」と指摘。行政や医療機関の態勢づくりで、議論を促したいと話した。

GID当事者は受診後、ホルモン療法や性別適合手術などを受けるが、保険適用外のため全額自己負担だ。その一

方で、戸籍の性別変更には子宮や卵巣、精巢を摘出したりする性別適合手術を受けることが条件となる。

GID学会理事長の中塚幹也・岡山大大学院教授によると、国内での手術には10

0万円以上必要で、実施する医療機関も少ないため平均

1年半待つことになるとい

う。GIDと診断された人の

約2割しか手術を受けておら

ず、性別変更のハードルは高

い。

中塚氏は「日本全国で治療

できるようにしたい。人材育

成と保険適用が鍵になる」と

語った。

受け入れ態勢強化課題

性同一性障害(GID)で

医療機関にアンケートを実

施。医師がGIDと診断した

人数を集計したところ、15年

末までに延べ2万2435人

だった。14年にも同様の調査

を行い、12年末までの受診者

数を集計。その際は延べ1万

5105人だった。

勢が改めて課題として浮かぶ。

今回、受診者数の調査対象

となったのは、GIDの症例

に詳しいとされる26医療機関

ばかりがある。GID学会

は受診者に適切な対応ができる

語った。